

高齢者の孤独感解消におけるペット飼育の効果

伊部 薫

1. 先行研究の整理と本研究の課題

1.1 先行研究の整理

孤独感を癒すために考えられる手段として主に①高齢者同士のふれあい、②子どもとのふれあい、③地域でのふれあいがあり、それぞれにそれなりの効果が得られたという報告があった。

しかし本研究で主にとりあげるのは、高齢者の知り合いも、子どもも、地域社会との接触もない高齢者に有効な手段と思われるペット飼育である。これもまた、前の3つの手段と同様にそれなりの効果が得られている。

1.2 本研究の課題

ペット飼育から高齢者の孤独感が癒されるまでのメカニズムと、高齢者の孤独感解消におけるペット飼育の有効性の実証。

2. モデル・方法の説明

対象者は、山形市在住者を母集団とし、電話帳から無作為抽出した20歳以上の男女合計1200人である。郵送法を用いて調査を実施し、そこから回収された回答のうち、本研究の対象者である60歳以上の高齢者の回答428件を抽出し、SPSSを用いて分析した。

3. 結果

- 1) ペットを飼い、家族の一員・親友パートナーであると飼育している本人が思うくらいにペットとの親密度が高まると元気が出ることから、家族との会話が増える
- 2) ペットを飼うことによって他人と知り合う機会が増加すると、会話方法を学び元気が

出ることから、家族との会話が増える

- 3) 友人知人の数・人と話す機会の増加は高齢者の幸福度を高める
という結果が出た。

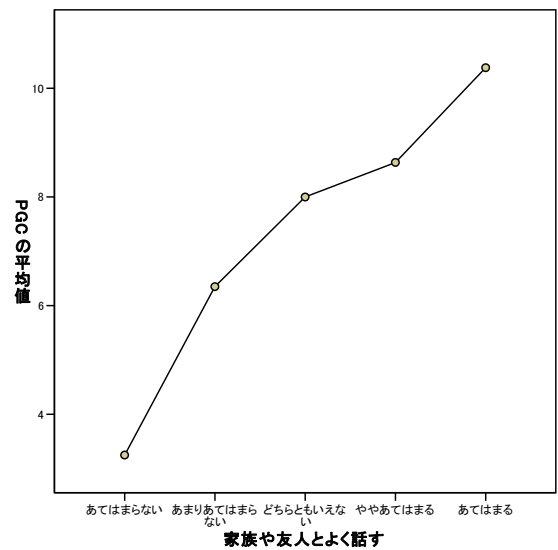


図1 家族や友人とよく話すとPGCの平均値のプロット

4. 考察

ペットを飼うことによって、ペットそれ自体によって孤独が癒されるというよりも、ペットを飼うことによって家族や友人、近所の知り合いといった、人とのネットワークができ、そして人と会話などのコミュニケーションをとることによって高齢者の孤独が癒されるということがわかった。つまり、ペットというのは人とのつながりを欲している高齢者にとってのコミュニケーション媒体の役割を果たしているということになる。

今後はペット飼育には必ずついてまわるペットロスに関する研究が課題となる。